

## 【経済学研究科(修士課程)カリキュラム・ポリシー】

平成25年 2月13日 経済学研究科委員会 制定

平成28年 3月19日 経済学研究科委員会 改正

平成30年 3月 5日 経済学研究科委員会 改正

令和 3年12月 8日 経済学研究科委員会 改正

経済学研究科では、ディプロマ・ポリシーの達成のために、以下のような組織編成とカリキュラム構成に基づいて教育研究を展開している。

### (教育課程の編成)

1. 専門分野に対応して2専攻が設定されており、学生は、いずれかの専攻に所属し専門的な研究を遂行する。

経済学専攻

経営学専攻

2. 学問的知見を基礎に修士論文を執筆する「修士論文コース」と、実務経験等を背景とした特定の課題に関する研究レポート(課題研究)を作成する「課題研究コース」の2つのコースが設定されており、学生は、いずれかのコースを選択する。

3. 「修士論文コース」では、修論演習を通して研究を深め、中間報告会・最終報告会での報告を通して、副指導教員を含めた集団的指導体制の多面的な指導と審査を受け、最終試験に合格しなければならない。「課題研究コース」では、実践演習および課題演習において、実践的・現実的な課題に取り組み、複数の審査委員による最終試験に合格しなければならない。

4. 入学直後に指導教員が定まるため、コースの選択や研究テーマの確定に向けて、第1 Semesterの初めから履修指導を受けることができる。

5. 専任スタッフによる経済学、経営学、会計学とその応用科目群(特殊研究および特講)に加え、経済・ビジネス分野の専門家を外部講師として招聘し実践力を養うための科目群(特講)を受講することができる。

6. 特定のテーマに関心のある院生のために体系的に編成された科目群(演習科目および専門科目)を「プログラム」として用意している。以下の4つのプログラムがある。

地域産業復興プログラム(経済学専攻)

ビジネスキャリア・プログラム(経営学専攻)

会計税務プログラム(経営学専攻)

グローバル政治経済学プログラム(経済学専攻)

(教育・学習方法)

学生が、ディプロマ・ポリシーに掲げた諸能力を獲得できるよう、講義、演習を体系的に実施する。本研究科においては、対話や討論、問題発見解決型学習、中間報告会等を実施することによって、各専攻が掲げる教育目標の達成を図る。

(学習成果の評価)

成績は、S、A、B、C、及びFの5段階をもって表し、S、A、B、及びCを合格、Fを不合格とする。各授業科目では、シラバスにレポートや最終試験等といった当該科目の「成績評価の方法」を明記し、可能な限り複数の評価手段によって成績を判定する。

修士論文及び課題研究の審査においては、学位論文等審査基準に基づき厳格な審査を行う。